

【 玖珠町 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語

- （１）正答数分布グラフ
- 学びに困難を抱えている層（正答率20%以下）の児童の割合が1.0%（県3.05%，全国4.7%）と少ない。
 - 正答率50%以下（7問未満）の割合は、12.6%（県14.3%，全国：17.8%）であり、町の目標（10%未満）は達成できていないが、県及び全国に対して少ない割合になっている。
 - 正答率80%（12問）以上の上位層の割合は25.2%（県28.8%，全国27.7%）であり、県及び全国に対してやや少ない。
 - 中央値が県・全国が10問であることに対して、本町は9問と低い結果になっている。分布の仕方が左寄りになっているといえる。
- （２）領域、観点別の結果
- 区分「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」が県及び全国平均よりも高い数値となっている。
 - 区分「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」が県及び全国平均より低い数値になっている。
- （３）設問別正答率
- 14問中8問が県平均・全国平均を上回っている。
 - ・漢字を使って書き直す問題は、全国平均を大きく上回っている。
 - 県平均・全国平均と5pt以上の差がある問題は3問であった。

2 具体的な改善方策

小学校：国語

1. 学びに困りを抱えている層へのきめ細かい支援
 - ・正答率50%以下（7問未満）の児童の割合は12.6%であり、町の目標（10%未満）は達成できなかったため、この層への対策を行うよう指導する。
 - ・基礎的な知識や技能の定着を図るため、漢字の読み書きや語彙力を高めるための反復学習やドリル学習の徹底を図るよう指導する。
 - ・家庭学習を習慣づけるため、学習計画の作成や時間管理の方法を児童に指導するよう投げかける。
2. 正答率が低い問題の改善
 - ・上記の改善に向けては、読解力の向上が必須であると考える。よって、多様な文章を読み解く活動を実施するよう指導する。
 - ・読解力の向上に加え、調べた内容をポスターや新聞、プレゼンテーション資料としてまとめ、発表する機会を設ける等、アウトプットの機会を増加するよう投げかける。
3. ICTの効果的活用
 - ・家庭学習で、ICT端末を積極的に活用できるよう、アプリの導入と整備を行う。
 - ・ICT活用に成功している先進地の事例を収集し、町内の他の学校に広く共有する仕組みを作り、町全体のレベルアップを図る。
4. 図書館の効果的活用
 - ・様々な文章に触れることで、語彙力や読解力を高めることを目的として、図書館活用授業を継続的に実施するよう指導する。

【 玖珠町 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数

- （１）正答数分布グラフ
- 学びに困難を抱えている層（正答率 20%以下）の児童の割合が 8.6%（県 8.4%，全国 10.1%）である。
 - 正答率 50%以下（8 問未満）の割合は、27.0%であり、県平均（30.2%）や全国平均（33.3%）他に対して少ない数値である。しかし、玖珠町の目標（10%）は、達成できていない。
 - 正答率 80%（13 問以上）の上位層の割合は 21.4%（県 27.1%，全国 25.3%）である。
 - 中央値は、県・全国と同じで 10 問である。
- （２）領域、観点別の結果
- 領域において、「数と計算」以外は県・全国平均よりも低い数値になっている。
 - 評価の観点では、「知識・技能」は県・全国平均よりも高い数値になっているが、「思考・判断・表現」は県・全国平均よりも低い数値となっている。
- （３）設問別正答率
- 16 問中 4 問が県平均及び全国平均を上回っている。
 - ・コンパスを使って平行四辺形を作図する 68.0%(県 64.0%,全国 58.3%)
 - ・異分母の分数の加法 90.3%(県 85.6%,全国 81.3%)
 - ・数直線上に示された数の分数を書く 58.3%(県 40.1%,全国 35.0%)
 - 16 問中 12 問が県・全国平均を下回っている。
 - ・伴って変わる 2 つの数量から必要な数量を見出す 74.8%(県 82.0%,全国 82.8%)
 - ・台形の性質 44.7%(県 55.9%,全国 50.2%)
 - ・はかりの目盛りを読む 58.3%(県 62.4%,全国 60.9%)

2 具体的な改善方策

小学校：算数

1. 学びに困りを抱えている層へのきめ細かい支援

- ・個別指導や少人数指導を積極的に実施し、一人ひとりの課題に合わせた支援を行うよう指導する。
- ・基礎的な知識や技能の定着を図るため、反復学習やドリル学習の徹底を図るよう指導する。
- ・家庭学習を習慣づけるため、学習計画の作成や時間管理の方法を児童に指導するよう投げかける。

2. 基礎・基本の学力の定着

- ・町独自で実施している算数確認テスト（年 4 回）の結果をフィードバックし、弱点の克服に向けた取組を徹底させる。
- ・各校が作成している、学力向上プランの取組推進を徹底させる。

3. つまずきの分析と指導

- ・児童がつまずきやすい問題（例：台形の性質 や、はかりの目盛りの読み取り）を分析し、その解決に向けて丁寧に指導する時間を設けるよう指導する。

4. ICT の効果的活用

- ・家庭学習で、ICT 端末を積極的に活用できるよう、アプリの導入と整備を行う。
- ・ICT 活用に成功している先進地の事例を収集し、町内の他の学校に広く共有する仕組みを作り、町全体のレベルアップを図る。

【 玖珠町 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：理科）

1 調査結果の分析

小学校：理科

（１）正答数分布グラフ

- 低学力層（正答率20%以下）の児童の割合が7.8%（県5.4%，全国8.0%）である。
- 正答率50%以下（8問以下）の割合は、33.9%であり、県平均（29.2%）より高く、全国平均（34.9%）より低い数値である。
- 正答率80%（13問以上）の上位層の割合は24.2%であり、県（29.6%）及び全国（27.1%）より低い数値となっている。

（２）領域、観点別の結果

- 評価の観点「思考・判断・表現」は、県・全国平均より低い数値になっている。
他の区分は、県及び全国と同程度である。

（３）設問別正答率

- 17問中6問が県平均及び全国平均を上回り、8問が下回る結果となっている。
 - ・レタスの発芽条件 21.4%（県34.4%，全国29.9%）
 - ・水が氷にかわる温度 44.7%（県58.0%，全国59.8%）などは県・全国平均を大きく下回った。

2 具体的な改善方策

小学校：理科

1. 学びに困りを抱えている層へのきめ細かい支援

- ・個別指導や少人数指導を積極的に実施し、一人ひとりの課題に合わせた支援を行うよう指導する。

2. 基礎・基本の学力の定着

- ・基礎的な知識や技能の定着を図るため、反復学習やドリル学習の徹底を図るよう指導する。
- ・実験・観察などの理解を深めるために、ICT機器の積極的な活用を徹底させる。

3. つまずきの分析と指導

- ・児童がつまずきやすい問題（例：レタスの発芽条件 や、水が氷にかわる温度 ）を分析し、その解決に向けて丁寧に指導する時間を設けるよう指導する。
- ・教科担任制推進教員（理科）の授業における好事例を町内で共有する。

4. ICTの効果的活用

- ・家庭学習で、ICT端末を積極的に活用できるよう、アプリの導入と整備を行う。
- ・ICT活用に成功している先進地の事例を収集し、町内の他の学校に広く共有する仕組みを作り、町全体のレベルアップを図る。

【 玖珠町 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語

（1）領域・観点

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」「読むこと」が県・全国平均を上回っている。
- 「話すこと」「書くこと」で県・全国平均を下回っている。特に、「書くこと」では5ptの差がある。

（2）正答数分布グラフ

- 学びに困難を抱えている層の生徒の割合（正答率 20%以下）は、6.5%で県(8.9%)や全国(7.9%)に対して低い数値となっている。
- 正答率 50%未満の生徒の割合は、34.5%（県 35.2%，全国 33.6%）であり、県及び全国平均と同程度ある。
- 正答率 80%以上（11 問以上）の上位層は、8.6%であり、県平均 14.3%・全国平均 14.7%に比べ低い数値になっている。

（3）設問別正答率

- 14 問中、県・全国平均を上回ったのは4問である。
- ・自分の考えをわかりやすく伝える工夫をするという設問では、28.0%（県 36.4%,全国 38.1%）で、県・全国平均よりも低い数値となっている。

2 具体的な改善方策

中学校：国語

1. 学びに困りを抱えている層へのきめ細かい支援

- ・個別指導や少人数指導を積極的に実施し、一人ひとりの課題に合わせた支援を行うよう指導する。
- ・基礎的な知識や技能の定着を図るため、個別最適化された反復学習やデジタルドリル学習を徹底するよう指導する。

2. 基礎・基本の学力の定着

- ・「話す・書く」（正確に話す・速く正確に書く等）の習熟に向けた取組を徹底させる。
- ・多様な文章を読み解く活動を実施するよう指導する。
- ・読解力の向上に加え、調べた内容をポスターや新聞、プレゼンテーション資料としてまとめ、発表する機会を設ける等、アウトプットの機会を増加するよう投げかける。
- ・家庭学習の習慣づけを支援し、学習計画の作成や時間管理の方法を指導する。

3. 組織的な対応

- ・教科部会を定期的に開催し、日常的に指導方法の交流・工夫改善を図るよう投げかける。
- ・課題を分析し、教科や学年の枠を超えて、組織的に取り組む体制をつくり、継続的に取り組むよう指導する。

4. ICT の効果的活用

- ・家庭学習で、ICT 端末を積極的に活用できるよう、アプリの導入と整備を行う。
- ・ICT 活用に成功している先進地の事例を収集し、町内の他の学校に広く共有する仕組みを作り、町全体のレベルアップを図る。

【 玖珠町 】

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析

中学校：数学

（1）領域・観点

○領域「関数」は、県・全国平均と同程度であるが、他の区分はすべて県・全国平均を下回っている。特に「図形」では全国平均と比べ 12.6pt も下回っている。

（2）正答数分布グラフ

○学びに困難を抱えている生徒の割合（正答率 20%以下）は、31.2%で、県(27.8%)、全国(23.8%)を上回っている。

○正答率 50%未満の生徒の割合は、64.6%で半数を大きく超えている。（県 59.0%,全国 54.2%）

○正答率 80%以上（12 問以上）の上位層は、11.9%（県 17.5%，全国 20.9%）であり、全国平均より 9pt 下回っている。

（3）設問別正答率

○大問 8 のグラフ「A 駅からの走行距離と運賃の関係」の読み取りの 2 問以外は、県及び全国平均を下回っている。全国平均と比べ 10pt 以上下回っている問題もある。

・「果汁 40%の飲み物 a mL に含まれる果汁の量を a を使って表す」「三角形の 1 つの角の外角を求める」などの正答率が特に低い。

2 具体的な改善方策

中学校：数学

1. 学びに困りを抱えている層へのきめ細かい支援

- ・個別指導の充実のため、習熟度別指導の促進を投げかける。
- ・小学校との連携を強化するために、校種間体験研修を実施する。
- ・学校運営協議会が主催する「未来塾」と連携し、低学力層への生徒へのフォローを丁寧に行っていくよう依頼する。

2. 基礎・基本の学力の定着

- ・町独自で実施している算数確認テスト（年 4 回）の結果をフィードバックし、弱点の克服に向けた取組を徹底させる。
- ・教科部会を定期的に開催し、日常的に指導方法の交流を実施する。
- ・家庭学習の習慣づけを支援し、学習計画の作成や時間管理の方法を指導する。

3. 組織的な対応

- ・教科部会を定期的に開催し、日常的に指導方法の交流・工夫改善を図るよう投げかける。
- ・課題を分析し、教科や学年の枠を超えて、組織的に取り組む体制をつくり、継続的に取り組むよう指導する。

4. ICT の効果的活用

- ・家庭学習で、ICT 端末を積極的に活用できるよう、アプリの導入と整備を行う。
- ・ICT 活用に成功している先進地の事例を収集し、町内の他の学校に広く共有する仕組みを作り、町全体のレベルアップを図る。

【 玖珠町 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：理科）

1 調査結果の分析

中学校：理科

（1）I R Tバンド

I R Tバンド「2」が県平均及び全国平均より 10pt 多く、I R Tバンド「4」は、県平均及び全国平均より 10pt 以上少ない結果となっている。

（2）設問別正答率

○全 22 問中（予測正答率を含む）県平均及び全国平均を上回った問題は 3 問、同程度 2 問であった。

- ・塩素の元素記号を記述する 16.1%(県 41.1%,全国 44.9%)
 - ・電熱線で水を温める電気回路で、最も早く温まる回路を選択する 37.6%(県 49.2%,全国 51.9%)
 - ・地層の粒の大きさから水が染み出る場所を選択する 16.1%(県 34.1%,全国 36.2%)
 - ・柔毛や肺胞、根毛に共通する構造をもつものを選択する 20.9%(県 35.2%,全国 34.8%)
- など基本的な内容の理解が求められる問題が出題されているが、どの分野でも、県・全国平均の正答率よりも下回っている。

2 具体的な改善方策

中学校：理科

1. 学びに困りを抱えている層へのきめ細かい支援

- ・定着できていない単元や内容を明確にし、それを補っていく取組をすることで、指導事項を明確にした授業のさらなる充実を図る。
- ・学習内容と振り返りがリンクするような授業改善を徹底させる。

2. 基礎・基本の学力の定着

- ・教科部会を定期的に開催し、日常的に指導方法の交流を実施する。
- ・「何のために、観察・実験を行うのか」という目的意識を持たせた授業づくりを徹底させる。
- ・基礎的な知識や技能の定着を図るため、反復学習やドリル学習の徹底を図るよう指導する。
- ・少人数による観察観察実験や教えあい、意見交換などを充実させ、ICT を利活用したアウトプットによる考察、説明を行う学習指導を実施するよう投げかける。
- ・家庭学習の習慣づけを支援し、学習計画の作成や時間管理の方法を指導する。

3. 組織的な対応

- ・教科部会を定期的に開催し、日常的に指導方法の交流・工夫改善を図るよう投げかける。
- ・課題を分析し、教科や学年の枠を超えて、組織的に取り組む体制をつくり、継続的に取り組むよう指導する。

4. ICT の効果的活用

- ・家庭学習で、ICT 端末を積極的に活用できるよう、アプリの導入と整備を行う。
- ・ICT 活用に成功している先進地の事例を収集し、町内の他の学校に広く共有する仕組みを作り、町全体のレベルアップを図る。

【 玖珠町 】

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問調査）

1 調査結果の概要

児童質問調査

【基本的生活習慣・自尊感情に関すること】

- ・学校の授業以外の勉強時間（平日）について、「30分未満」「全くしない」という回答が全国平均で18.6%となっているが、本町では、7.0%と全国よりも低い数値になっている。
- ・「1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（平日）」について、「1時間以上」の割合は、15.2%（全国）に対して、本町では13.0%と低い数値になっている。
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答した割合は、78.0%である。

【授業に関すること】

- ・「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という問いに対して、「発表していた」「どちらかといえば、発表していた」と回答した割合は63.0%であり、全国平均68.6%よりも低い数値であった。
- ・どの教科も、「発表していた」と回答した児童の正答率は高く、「どちらかというと発表していなかった」と回答した児童の正答率は低かった。
- ・「学級の児童との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という問いに対しては、全国84.9%に対して本町85.0%であり、差はみられなかった。
- ・「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という問いに対して、ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）49.5%、ほぼ毎日（1日1回くらいの授業）26.8%という結果であり、合わせると、76.3%であり、全国平均の46.7%を大きく上回っている。

生徒質問調査

【基本的生活習慣・自尊感情に関すること】

- ・学校の授業以外の勉強時間（平日）について、「30分未満」「全くしない」という回答が全国平均で19.0%となっているが、本町では、10.8%と全国よりも低い値になっている。
- ・「1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（平日）」について、「1時間以上」の割合は、9.6%（全国）に対して、12.9%と高くなっている。
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答した割合は、68.8%であり、低い数値となっている。

【授業に関すること】

- ・「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という問いに対して、肯定的な回答した生徒の割合は、全国平均63.0%に対して、本町は51.7%であり10pt以上の差がある。
- ・「発表していた」と回答した生徒（10.8%）の正答率は理科以外は高く、「どちらかというと発表していなかった」生徒の正答率は低かった。
- ・「他者との話し合い活動で、自分の考えを深めたり広げたりする」の問いに対しても全国84.7%に対して、本町は77.4%であり、7ptの差がみられた。
- ・「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という問いに対して、「1日1回以上」と回答した生徒の割合は92.5%と、全国平均の53.2%に対して高い数値である。

2 玖珠町の児童・生徒質問調査の調査結果をふまえて

「誰一人取り残さない」教育を目指して

授業に対して前向きな児童・生徒がいる一方で、自己肯定感や学力の向上が課題である子どもたちも存在する。この現状に対応するため、以下の4つの課題に重点的に取り組む。

1. 自己肯定感（自己存在感）の向上

- ・授業や特別活動など、学校全体の教育活動で生徒指導の3機能を活用した取組を充実させる。
- ・家庭や地域との連携を深め、児童・生徒の自己肯定感を高めていく。

2. 家庭学習の充実に向けた学校全体の取り組み強化

- ・児童・生徒一人ひとりの家庭での時間の使い方を丁寧に把握し、家庭と連携しながら個別の指導を行う。
- ・学校全体で家庭学習の習慣化と充実を図る取り組みを進める。
- ・家庭学習の方法を指導したり、計画的な課題を提示したりするなどの具体的な取り組みを行う。また、家庭と連携して、記録やチェック
- ・これらの取り組みを通じて、家庭学習の質と量の両方を向上させる。

3. 表現力の向上の取り組み

- ・課題に対する自分の考えを持たせ、説明する場を設定した授業改善を進める。
- ・行事などで表現の場を設定し、子どもの自主性を尊重しながら丁寧事前指導を行う。また、事後は必ず評価をする場を設定し、子どもの成就感を味わわせる。
- ・互いの考えを聴き合い、認め合う学校や学級の風土を創り上げることで、表現力のさらなる向上をめざす。

4. 学校間の連携強化

- ・小・中学校間および小学校間の連携を深める。
- ・9年間を通して共通して指導する内容に焦点を当て、有効な指導方法を共有する。
- ・これらの連携を通じて、教職員のさらなる指導力向上を図る。

【 玖珠町 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問調査）

1 調査結果の概要

学校質問調査

本町においては、今年度調査対象校が小学校（5校）と中学校（1校）義務教育学校（1校）と少ないため、単純に全国平均・県平均の割合と比較して特徴を述べるのが難しい面があるが、主として、以下の点があげられる。

<小学校>

- 児童が「熱意をもって勉強している」と回答した学校の割合 100%。
- 「ICTを活用した校務の効率化」について、肯定的に回答した学校 100%。
- 「指導計画の作成において、地域の外部資源を活用している」について、肯定的に回答した学校 100%。
- 「新しい取組を導入したり、提案したりする教職員が多い」と回答した学校の割合 83.3%。

<中学校>

- 「ICTを活用した校務の効率化」について、「十分に実施している」と回答。
- 「生徒の姿や地域の現状等に基づき、教育課程のPDCAサイクルを確立している」について、「十分に実施している」と回答。
- 「指導計画の作成において、地域の外部資源を活用している」について、「十分に実施している」と回答。
- 「教職員が困っているとき、管理職と随時相談できる組織的対応体制を構築している」について、「十分に実施している」と回答。

2 玖珠町の学校質問調査の結果をふまえて

ほとんどの学校が各質問に対して肯定的な回答をしていることから、組織的に取り組んでいる学校が多いことが見てとれる。

今後の主な課題

1. 「誰1人取り残さない」「個別最適な学び・協働的な学び」を意識した授業改善

- ・児童が熱意をもって学習している状況を維持するため、個々の習熟度や興味に応じた個別最適な学びと、他者と協働して学ぶ協働的な学びを組み合わせた指導方法を確立し、学びへの意欲をさらに高める必要がある。
- ・ICTの効果的な活用を町内全学校で展開させることで、教員間の指導力の差を縮め、どの学校でも質の高い授業の実現をめざす。

2. 家庭学習の充実に向けた学校挙げての取組の強化

- ・学校挙げて家庭学習の習慣化や充実を図る取組を行うことによって、家庭学習の質・量ともに向上させる必要がある。
- ・ICT機器を活用して、家庭でも児童が主体的に学べるデジタル教材や、授業内容と連動した課題を提供することによって、家庭学習の充実を図る。

3. 学校間連携の強化

- ・中1ギャップの解消に向け、小中および小学校間の校種間連携を深め、9年間を通して共通して指導する内容の焦点化や有効な指導方法の共有等を行うことによって、教職員の更なる指導力の向上をめざす。
- ・小1プロブレムの解消に向け、架け橋期の連携充実も同時並行に取り組んでいく。